

## 第1回 総務企画専門委員会 議事録（概要）

### 1 日時

平成26年(2014年)2月14日(金) 10:00～12:00

### 2 場所

滋賀県大津合同庁舎7階 7-A会議室

### 3 出席委員（五十音順、敬称略）

太田 千恵子、嘉悦 和子、川崎 辰巳、沢井 進一、柴田 恵美子、辻 雅代、  
中井 敏勝、中川 一彦、中村 恒晴、中村 富士男、廣田 由行、福永 忠克、  
増田 和貴、松永 敬子、山崎 薫（委員定数15名全員出席）  
（事務局：日爪教育次長、木村事務局長、事務局職員）

### 4 配付資料

別添のとおり

### 5 会議概要

#### （1）委員長・副委員長の選出

※委員の互選で、増田委員を委員長に、沢井委員を副委員長に選出。

#### （2）会議の公開等について

※事務局より説明。原案どおり、「会議公開方針」「傍聴要領」の承認を得た。

#### （3）説明・報告事項

※事務局より、次第6（1）から（4）について説明。

#### 【質疑】

（委員）

滋賀での国体で実施する競技が正式に決まらなると会場地選定はできないのでは  
はないのか。

（事務局）

今までの国体の経過から見て、正式競技に選定される種目が大きく変わるこ

がないと考えており、現時点で発表されている競技が行われるという前提で選定を進めていきたい。

(委員)

大学や民間の施設を国体で活用するための大学や民間企業へのアプローチはどのように行うのか。

(事務局)

大学の体育施設の概要は事務局で把握しているが、民間施設については今後把握に努める。そのうえで、条件が許せば会場施設の候補として検討していただけるよう市町や競技団体に情報提供したい。

(委員)

前回のびわこ国体の競技会場が今回の会場地選定の前提となるのか。

(事務局)

びわこ国体の会場地を前提にはしない。まずは市町と競技団体の希望を聴き、選定を進める。

(委員)

公開競技、デモンストレーションスポーツは必ず実施するものなのか。また、公開競技、デモンストレーションスポーツで実施する競技はどのように決まるのか。

(事務局)

公開競技、デモンストレーションスポーツは競技団体と開催県が調整のうえ、開催することとなっている。また、公開競技、デモンストレーションスポーツでどの競技を実施するかは、別の専門委員会で協議し選定する予定である。ただし、会場地選定は将来総務企画専門委員会で行う。

(委員)

すべての市町において最低1競技を開催するということだが、現時点で市町の規模等を考慮した事務局の考えはあるのか。

(事務局)

市町の希望を伺ったうえで選定することになるが、小規模な市町は複数で連携

して開催するなどの方法も含め、できるだけ県内全域に拡がりをもたせた会場地の選定を進めたいと考えている。

(委員)

東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタース等の開催と国体準備との関連はどうか。

(事務局)

東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタース等の開催も視野に入れながら、国体準備のスケジュールを考えていきたい。

(その他委員からの意見・要望)

- ・デモンストレーションスポーツは、障害のある人も一緒にできるスポーツの普及等も考慮して実施競技を選定されたい。
- ・全国スポレク祭、全国高校総体、全国中学校体育大会等の開催実績を参考資料として整理されたい。

#### (4) 審議事項

※事務局より、「第79回国民体育大会会場地選定に関する基本的な考え方について(案)」「第79回国民体育大会競技施設基準(暫定版)(案)」について説明。原案どおり承認を得た。

#### 【質疑】

(委員)

会場地選定を進めるには、市町への財政面での支援の具体的な内容等の裏付けとなるものを提示する必要があると考えるが、どうか。

(事務局)

「県として何らかの支援をする」ということはお示ししているが、具体的な支援の対象等は決まっていない。先催県の例を参考にしながら、できるだけ早期に市町に提示できようになりたい。

(委員)

市町立施設を会場とするか、県立施設を会場とするのかの判断・調整はどのように考えているか。

(事務局)

各市町においては、県立社会体育施設の活用に対する期待が大きく、まずは会場となる県立施設が決まらないと市町立施設の活用や整備の方向性も定まらないのではないかと考えている。県では来年度、県立社会体育施設の修繕の必要性も含めた今後のあり方についての調査を予定しているので、その調査結果も踏まえ、会場地選定を進めてまいりたい。

(委員)

会場地選定には1次、2次、3次とあるが、すべて選定ができてから一括して決定していくのか。

(事務局)

マッチングができた競技から順次、総務企画専門委員会を経て、常任委員会で決定していくことになる。その後は、決定していない競技について、順次、2次、3次と選定作業を進めていくことになる。

(委員)

各種団体は国体に向けて独自の準備活動を展開するのか、あるいは県から協力依頼等があるのか。

(事務局)

国体をスポーツの振興だけではなく、日常の健康づくりにつながる大会としたことから、各団体からの国体準備に関するご提案もお受けしたいと考えている。また、協力をお願いすることもあると考えている。具体的な取り組みは開催基本構想の審議の中で是非議論をお願いしたい。

(委員)

宿泊の確保も重要と考えるが、会場地選定との関連はどうか。

(事務局)

宿泊の確保は会場地選定の基準にもあり、一定の確保の見込みがあるものについて選定していくこととなる。

(その他委員からの意見・要望)

- ・市町が施設整備を計画する場合、合併特例債を活用した事業として位置付ける

ことのできるタイミングは重要であり、会場地選定のスケジュールとの整合性については考慮する必要がある。

(5) その他

※事務局より、第1次選定までの会場地選定のスケジュールについて説明。

【平成26年5月頃】

第1回国体開催準備市町担当者連絡会

第1回国体開催準備競技団体担当者連絡会

(内容) ・選定スケジュール  
・会場地選定調査の概要

【平成26年11月頃】

第2回国体開催準備市町担当者連絡会

第2回国体開催準備競技団体担当者連絡会

(内容) ・会場地選定調査について

【平成26年11～12月末頃】

市町開催希望調査、競技団体会場地希望調査

【平成27年1～2月頃】

ヒアリング(市町・競技団体)

第1次選定案の作成

【平成27年4月頃】

総務企画専門委員会

(内容) ・第1次選定案の審議

(以上)